

伊予市健康づくり計画目標指標

【大目標】

健康寿命の延伸と健康格差の縮小

・日常生活動作が自立している期間の延伸

・64歳以下の死亡率の減少

(計画参照頁 12-13)

目指す姿

すべての市民が共に支え合い、健やかで心豊かに生活できる
活力ある社会の実現 ～いきいき健活 増やそう笑顔～

指標内訳

・主に悪化傾向にある指標■

・引き続き重点的に取り組む指標▲

(国や県の現状や目標値と比べて悪化状況)

その他、青字は、変更した指標で、赤矢印は、とくに優先的に取り組む重点課題を示しています。

		胎児(妊婦) 0歳		18歳		20歳		30歳		40歳		65歳		75歳		死亡	計画参照頁
		幼児期 0～4歳	少年期 5～14歳	青年期 15～24歳		壮年期 25～44歳		中年期 45～64歳		高年期 65歳～							
生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底	生活習慣病	がん	・がん検診の受診率向上■										・がんのSMRの減少▲	14～7			
		循環器疾患	・高血圧の改善(収縮期血圧の平均値の低下) ・脂質異常症(LDL(悪玉)コレステロール値)の減少■										・循環器疾患のSMRの減少 ア 脳血管疾患 イ 心疾患▲	18・19			
		糖尿病	・糖尿病有病者の増加の抑制 ・治療継続者の割合の増加 ・血糖コントロール不良者の割合の減少											20・21			
		特定健診・特定保健指導	・特定健診の実施率の向上▲ ・メタボリックシンドローム予備群・該当者の減少■ ・特定保健指導の実施率の向上											26～29			
	肝疾患	・肝炎ウイルス検診の受診率向上▲ ア B型肝炎 イ C型肝炎										・肝炎のSMRの減少▲	22～25				
栄養・食生活、身体活動・運動、休養、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣及び社会環境の改善	生活習慣(個人の健康づくり)	飲酒	・妊娠中の飲酒ゼロを維持する■		・生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している人の割合を減少■ ・飲酒の害について知らない中学2年生をなくす											46・47	
		喫煙	・妊娠中の喫煙をなくす		・成人の喫煙率の低下 ・喫煙の害について知らない中学2年生をなくす ・COPD(慢性閉塞性肺疾患)の認知度の向上▲ ・受動喫煙(職場・家庭▲)の機会を有する者の割合の低下											48・49	
		栄養・食生活	・朝・昼・夜の3食を必ず食べることを気をつけて食事をしている小学5年生の割合の増加■ ・朝食を1人で食べる子どもの割合の減少■ ・適正体重を維持している人の増加(20～60歳男性の肥満減少) ・適切な量と質の食事を取る人の増加 ア 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上の日がほぼ毎日の人の割合の増加▲ イ 薄味にしている男性の割合の増加											40・41			
		身体活動・運動	・日常生活における歩数の増加▲ ・運動習慣者の割合の増加■ ・運動不足を感じている人の割合の減少■											42・43			
		歯・口腔の健康	・乳幼児(3歳児)のむし歯のない者の増加		・歯の定期健診をしている人の割合の増加 ・学童期(小学5年生)の一人平均むし歯数の減少 ・8020運動を認知している人の割合の増加						・歯の喪失防止 ア 40歳(35～44歳)で喪失歯ゼロ イ 60歳(55～64歳)で24歯以上 ウ 80歳(75～80歳)で20歯以上 ・60歳代における咀嚼良好者の増加				50・51		
		休養	・睡眠による休養を十分とれていない者の減少											44・45			
社会生活を営むために必要な機能の維持・向上	こころの健康	・精神がぐたぐたになる人の割合の減少 ・悩みを相談できる相手がいる人の割合の増加										・自殺のSMRの減少▲	30～33				
	次世代の健康	・適正体重の子どもの増加 ア 全出生数中の低出生体重児の割合の減少 イ 肥満傾向にある小学5年生の割合の減少 ・運動やスポーツを習慣的にしている小学5年生の割合の増加											34・35				
	高齢者の健康	・ロコモティブシンドローム(運動器症候群)を認知している人の割合の増加▲										・低栄養傾向の高齢者の割合の減少■ ・要介護状態の高齢者の割合の減少 ・足・腰の痛みのある高齢者の割合の減少 ・社会参加をしている高齢者(60歳以上)の割合の増加	36・37				
健康を支え、守るための社会環境の整備	地域の絆による社会づくり	・自分と地域の人たちとのつながりが強い方だと思う人の割合の増加■ ・地域の役員や健康・医療サービスに関係したボランティア活動をしている人の割合の増加											38・39				